

第125回経営協議会議事要録

日時 令和6年6月19日(水) 13時30分～15時10分

会場 大学本部棟5階 第1会議室

出席者 (委員)

長田・進藤・山本・山中・窪田・野田・吉岡 各委員

中村学長、黒澤・奥田・茅・片田・市川・木内 各理事

(列席者)

小林理事、齋藤監事、八巻監事、埴副学長

志村・土屋・深澤・種田・壬生・雨宮・望月・小谷・石原 各部長、

植村・望月・齋藤・岩元・白澤・大坂・笹原・大森・千野 各課長

議事要録確認

第124回(R6.5.24開催)の経営協議会議事要録を確認した。

審議事項

1 令和7年度概算要求(案)について

市川理事から、資料1により、標記概算要求において「教育研究組織改革」については、5事業(拡充2事業及び継続3事業)を選定したこと、「基盤的設備等整備」については設備マスタープランの整備計画表を改定し、同プランに基づき選定したこと、及び要求順位等の取扱いについては、学長一任としたいことについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

2 令和5年度決算(案)について

市川理事から、資料2により、令和5年度決算(貸借対照表、損益計算書、決算報告書等)について説明があり、審議の結果、これを承認した。

3 令和5年度自己点検・評価(案)について

黒澤理事から、資料3により、標記自己点検・評価について説明があり、審議の結果、これを承認した。

4 医学部医学科の入学定員(令和7年度)(案)について

黒澤理事から、資料4により、標記入学定員に係る増員期間延長手続を行うことについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

5 年次別の入学定員変更計画(案)について

黒澤理事から、資料5により、令和7年度の教育学部、生命環境学部、修士課程看護学専攻の入学定員の変更について説明があり、審議の結果、これを承認した。

6 大学病院改革プランの策定(案)について

木内理事から、資料6により、文部科学省が作成した大学病院改革ガイドラインに基づき、標記プランを策定することについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1 令和5年度資金運用実績について

市川理事から、資料7により、標記運用実績について報告があった。

その他

・中村学長から、机上配布資料により、国立大学協会総会意見交換会文部科学省説明資料(抜粋)について説明があった。

- 中村学長から、机上配布資料により、国立大学協会理事会から発出された声明（我が国の輝ける未来のために）について説明があった。
- 中村学長から、新たに相談役を設けることに関し、目的や候補者についての説明があった。
- 中村学長から、本学職員が飲酒運転にて逮捕された件について、謝罪があった。

次回会議 令和6年9月18日（水）10時30分から開催することを確認した。

学外委員からの意見・質問

審議事項

2 令和7年度概算要求（案）について

（山本委員）

- ・賃金が高騰しているが、山梨大学では人件費の増加をどの程度見込んでいるのか。

（片田理事）

- ・賃金1%上昇につき、8千万円の人件費増加を見込んでいる。

（進藤委員）

- ・地方国立大学のあり方そのものを変えていくことも考えていく必要があるのではないか。

（中村学長）

- ・地方国立大学の現状を理解していただき、社会と連携して改革を進めていかなければならないと考えている。

3 令和5年度自己点検・評価（案）について

（長田委員）

- ・資料P20の「中計No.23」の評価結果について「計画通り取り組めていない」とした理由を教えてください。

（市川理事）

- ・効果等が十分に表れていないことから、そのような評価とした。今後は、双方にとって重要な事項に絞って議論を行うなど工夫して取り組んでいきたい。

（長田委員）

- ・実質的なコストに見合うものとなるよう県においても担当部署に共有したい。

（中村学長）

- ・地域の課題を反映したグランドデザインを作成し、県・大学・企業等も含めてコーディネートしていくことが重要であると考えている。

（山本委員）

- ・県や大学などが多くの課題を抱える中で課題を絞ることが取組の遅れ等の要因と思われることもあるので、課題そのものの設定を地域と大学とで考えていくべきではないか。

（市川理事）

- ・過去の延長線上で進めるのではなく、時勢や環境変化に合わせて、地域と大学で課題設定のすり合わせを適切に行いながら進めていくべきだと考えている。

（野田委員）

- ・資料P21の「中計No.29」の評価結果について「取組に遅れがある」とした理由を教えてください。

（木内理事）

- ・地域医療研修の実習施設として6施設を追加したものの、教育重点施設の選定までには至らなかったためである。

4 医学部医学科の入学定員（令和7年度）（案）について

（野田委員）

- ・医学科入学定員について、後期入試に重きを置くことが、県内の高校生が受験し難い要因となっているのではないか。

(木内理事)

- ・入試科目に英語を導入したことにより、多様な学生が入学してくるようになった。
- ・後期の入学定員に重きを置くことにより偏差値は高い状態となっているが、入学後の成績データなども確認する中で、後期の入学定員の比率についての検討を行っていききたい。

(野田委員)

- ・山梨県で医師になる人材を増やすためにも、前期入試の入学定員の比率を高めてもらいたい。

(木内理事)

- ・今後地域に残る医師を増やす観点からも入試方法等を検討していききたい。

6 大学病院改革プランの策定（案）について

(野田委員)

- ・医療と介護の連携において、SNS を利用した情報共有システムの導入が進んでいるが、大学での導入にあたり、障壁はあるのか。

(木内理事)

- ・障壁はないものと考えている。SNS を利用した情報共有について、現在は各診療科で行っているが、今後必要であれば、病院全体で検討していききたい。

(野田委員)

- ・クラウドファンディングを利用するにあたって、事務手続きが非常に複雑と思われるが、サポートするような仕組みはあるのか。

(種田部長)

- ・事務手続きの簡素化に向け、例えば専門的な部分については、URA の力を借りながら進めていききたい。

その他

国立大学協会声明について

(山本委員)

- ・国大協の声明の他に、山梨県民、さらには学生に向けて、学長・理事等や経営協議会委員の連名で山梨大学としての声明を発信してほしいと考えている。

(中村学長)

- ・声明の原文を作成するので、学外委員にも賛同をお願いしたい。

(進藤委員)

- ・国大協の声明は、国民へのお願いで何を求めているのかが抽象的で分かり難い部分がある。

(中村学長)

- ・本学の声明ではできるだけ具体的な記載をしていきたい。

(吉岡委員)

- ・国大協の声明では、国民へのお願いに明確性がないように感じている。
- ・様々な人や団体をつなぎ合わせる専門的な知識をもち、フットワークの軽いコーディネーター的な人材がいれば、メッセージが効果的に発信できるのではないか。

(中村学長)

- ・メディアや各種団体の会合の場を通じて本学の考えを発信していききたい。